

カーディフ大学 日本語教育実習

外国語学部外国語学科日本語専攻
山根 義貴

渡航先：

ウェールズ カーディフ カーディフ大学 日本研究センター

滞在期間：

2月16日～3月16日（31日間）

研修期間：

2月18日～3月15日（4週間）

費用：

旅費 約11万円（カタル航空）

学費 1800ポンド（大学代、語学学校代、ホームステイ代）※1※2

生活費 300ポンドから（食費、交通費など）※3

（滞在中レート1ポンド約140円）

※費用は全て個人負担。

※1 ホームステイ2食付。寮の場合食事がないため、100ポンド安くなる。

※2 日本から送金するか、現地で支払うかは選択可能

※3 昼食代+市内移動費1日約10ポンド×30日で約300ポンド

参加者：

北九州市立大学 3名

北海学園大学 3名

姫路獨協大学 1名

計7名

日程：

第1週目 TBLTについての講義

第2週目 午前中は言語学校 CELT で英語力向上に努め、
午後は授業見学、各グループ実習の教案作成
週末にはロンドンでスピコン見学

第3週目 第2週同様

第4週目 教育実習

受入先機関情報：

大学：カーディフ大学：

教員：百済 正和先生

学生：ビジネスコース 2 年生 17 名、欧州言語コース 2 年生 8 名 計 25 名

授業：語彙・文法・翻訳・読解など週 10 時間のカリキュラムが組まれている

実習内容：

一週目は Task-Based Language Teaching (TBLT) についての知識、授業方法の講義が一日 2 時間、その後、授業見学が 1~2 時間ある。まず、英国の大学での日本語教育の概要や、TBLT と Task-Supported Learning、要するに Presentation - Practice - Production (PPP) と順に追っていく指導方法との違いを学ぶ。そして、講義後すぐに授業見学へと移るため、直前に学んだ事を理解しやすい。また、二週目から入学する語学学校へ行き、プレースメントテストも受ける。

二週目から上記にもあるように語学学校へ行くと、プレースメントテストの結果を元に、クラス分けさる。基本的に C2・C1・B2 レベルのどれかになるのだが、極希に B1 に振り分けられる場合もあるようだ。各自のレベルに合ったクラスで語学向上に努める。午後からは自由時間兼、日本語クラスの見学、第 4 週目の教案作りに当てる時間となる。また、四週目に行う実習のチーム分けもする。大学で積極的に授業見学することで、学習者と親密感が生まれ、一緒に食事へ行ったり、カーディフ市内を一緒に散策したりできる。さらに、週末にはロンドンで大学生のためのスピーチコンテストが開かれるので、聞きに行くことを百済先生に勧められる。スピーチコンテストへ行くことは強制ではないが、金、土、日の 2 泊 3 日で行くことで、ロンドン見物がゆっくりできる。

三週目も二週目同様に、語学学校と授業見学となる。しかし、次週に迫る教案の提出、確認などのミーティングが行われる。そこで、百済先生の指摘、アドバイスが入り、教案をさらに煮詰める作業になる。

四週目が実習となる。2 コマ連続で実習した後、フィードバックセッションが始まる。何か問題点があると、それが次回の授業の課題となる。一チーム 3 人構成で、前半、中盤、後半で、主となる教師の交代となり、2 コマ目は 1 コマ目と違うポジションで主とならなければならない。それを 2 日以上するので必ず前半、中盤、後半の全ての位置で教えることとなる。

生活：

カーディフ市は英国の首都であるロンドンから高速バスで約三時間のところにある。ホームステイ希望者は語学学校公認の受け入れ先に自動的に振り分けられる。語学学校のホームステイ先審査は非常に厳しく、辺鄙なところへ振り分けられるということはない。また、受け入れ先とどうしてもうまくいかない場合は、すぐに変更して貰える。私の場合、

ホームステイ先から市内中心へは、バスで 10 分、徒歩でなら 20 分で行け、治安も大変良いものだった。大学までは市内中心からバスで 10 分、徒歩 20 分で行ける。元気のある時はホームステイ先から散歩がてら 40 分かけ大学まで歩いて行ったが、やはり一度市内中心へ出て、一度、乗り換えるバス通学を勧める。

感想：

やはり、初めての英語圏という事で非常に緊張したが、拙い英語もなんとか通じ、たくさんの方の友人、知り合いができたことが嬉しかった。また、本学では PPP という流れの教授法を学んできたが、TBLT という新しい教授法に触れ視野が広がった。他校の学生とチームティーチングできたことが、非常に良かった。それは、本学と違う環境で、日本語教育を培ってきた人とアイデアを出し合い話しあう事で、ときには百済先生よりも厳しく意見し合え、切磋琢磨できたことだ。他者と協力し、成功を収めるためには話し合いが非常に大事だという体験もできたからだ。自費で行かなければならない実習だが、それ以上に知識、人とのつながり、思い出など数えきれない宝物を手に入れられたのではないだろうか。

大学



ロンドンで行われたスピーコン

